



ガバナーメッセージ 経済と地域社会の発展月間 米山月間

国際ロータリー
第2660地区 ガバナー

立野 純三
(大阪RC)



ロータリアンの皆さんが既にご理解されておられる米山奨学会の主旨、設立等について改めて申し上げますが、大きな目的は将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学するとしています。

これは私の個人的な考えですが、米山に寄付をするロータリアンの思いとは、将来、日本にとって重要な友好国となるであろう国からの留学生を支援する事ではないでしょうか。またこの様な国がひとつでも多く増えていく事が重要だと考えます。

米山記念奨学会が創立され60年以上にも渡り、従来の方針を大事にしながら時代の流れに変化する事も一考かと思えます。寄付金額も年々減少していますが、これはロータリアンの減少と経済の停滞との相関関係があると思えます。

特に関西・大阪の経済は依然、厳しい状況にある

と思われます。私は、大阪経済に刺激を与える必要があるのではないか、即効性と持続性のあるIR(統合リゾート)を実現することが不可欠だと思います。IR(統合リゾート)と言うとカジノを想像される方が多いですが、コンベンションホール、国際会議場やその他関連施設がメインであり、国際的な施設を建設することによって新しい雇用をうみだし、世界中から人を呼ぶことができ、大阪経済活性化の起爆剤になることは間違いないと思えます。相乗効果として、ロータリーメンバーが増え、米山に対する寄付も増えるのではないのでしょうか。

また、今迄米山奨学生の受け入れを経験されていないクラブにも受け入れを経験していただき米山奨学生の素晴らしさと大切さを知っていただくことが重要だと考えます。